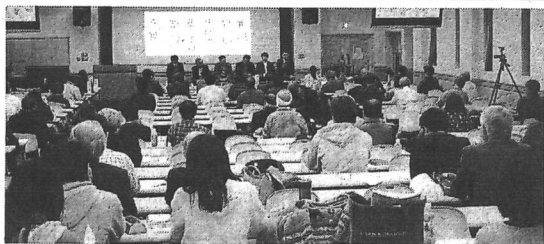


# 府市大の統合やめて

## 学者・学生らシンポジウム



豊かな大阪をつくろうと大学問題をテーマに開かれたシンポジウム  
11日、大阪市

「大阪市存続」の住民決断を踏まえて豊かな大阪をつくる方途を考える連続シンポジウムの第4回目が1日、大学問題をテーマに大阪市立大構内で開かれ、主催の学者有志や市民・学生ら約120人が参加しました。

大阪では、橋下「維新の会」が府立大・市立大を「二重行政」と決め付けて統合を要求するなど、大学の自治や学問の自由という観点からみても深刻な問題を

引き起こしています。

集会では、市大の学生有志が独自に実施した両大の学生アンケート調査で統合に反対（45%）が賛成（14%）を大幅に上回っていたことを報告。「大阪の公立大学のこれからを考える会」の学生は、学生への説明と合意もなく進められた統合計画は白紙に戻してほしいと主張しました。

「市民生活の指導機関に」と設立された市大の歴史を立命館大学の森裕之教授が紹介。小林宏至府大名誉教授は、大阪は府大・市大に「分不相応な金の

使い方」をしているなど主張してきた橋下徹現市長の発言について「公立大学には国から設置自治体にお金が出ていることにまったくふれていない」と批判。市大の教授は「統合以前に大学への補助金を市がちゃんと出してくれるのか、切実な状況だ」と語りました。

藤井聡京都大学大学院教授は「国家が正気を保つための仕組みが大学。大学こそ全体主義にあらがう最大のもりでだ」と力説。学者の批判的な言動に不当な圧力をかける橋下「維新」を批判しました。